

金山の史跡を活用して集落に 明るい希望を見つけない

金山公民会は、高齢化率63%で、町内でも高齢者が多い集落のひとつです。集落では、活性化を図ることも大切ですが、現状をどう維持していくのかが大きな課題となっています。集落には71世帯あり、小学生が1人、中学生が1人といった状況です。他の地域のように人を集めて何かをするといった取り組みがなかなかできません。そこで、私たちは、金山の史跡を活用することで、集落に明るい希望を見いだせないものかと考え、永野（長野）金山の歴史調査実行委員会を立ち上げました。実行委員会では、当時の資料発掘や座談会、講演会など、多くの方の協力を得ながら、これまで会を重ねてきました。年に一度開催される永野ウォーキング大会での金山史跡巡りは見所のひとつとなっています。集落のほとんどが高齢者ですので、集落を越えた永野区の方々や行政に力を借りながら取り組んでいるところです。最近では、ウォーキング大会以外にも史跡を訪ねる方を多く見受けられます。団体客が福岡から観光バスで来られたこともあります。こうした中で、いつ、誰が来ても、史跡巡りが楽しめるような案内板の設置や遊歩道の整備などが出来ればいいと考えています。地元郷土料理が味わえる資料館があって、いつでもお客さんが金山史跡を楽しめる、そんなさつま町の観光スポットのひとつとなることを希望に抱き、集落みんなががんばっているところです。



永野（長野）金山の歴史調査実行委員会
実行委員長

つしまつ やすひろ

辻松靖浩さん 73歳



薩摩農村環境改善センターで行われた永野（長野）金山の歴史調査実行委員会の様子。これまで9回の実行委員会を開催。現在、史跡の活用や整備などについて協議中。



霧島市横川町での研修の様子。市教育委員会より史跡の説明を受け、横川郷土館を視察。写真は、徳源社跡。



永野区の住民がボランティアで史跡周辺を清掃している様子。永野ウォーキング大会の前に実施しており、年々きれいになっています。



さの やすひろ
佐野裕英さん 74歳

私は、鉱石をトロッコに積む仕事をしていました。竹で編んだブイジョケを使って積んでいました。1台のトロッコに1トンの鉱石が積みました。1人1日15台から16台積んでいた記憶がありますので、今考えると、当時は相当な重労働だったですね。鉱石を積んだトロッコは15台から20台連結されて製錬所まで運んでいました。



ひめの かつみ
姫野勝巳さん 77歳

私は、21歳の時に入坑して、閉山まで坑内のトロッコ列車路線の延線や保線などの仕事を行っていました。線路の下に敷かれた枕木が腐むと脱線する恐れがあるので、常に補修をする必要がありました。枕木は、水に強く腐れにくい松の木を使っていました。延線作業は、4寸と8寸の鉄製のレールを坑道の長さに応じて、使い分けていました。



きじま あきら
貴島晃さん 88歳

昭和13年、18歳の時に入坑しました。鉱山へは18歳にならないと入れないものでした。当時、私は、坑内の事務所で、出勤表を付けたり、ダイナマイトの受け渡しなどをしていました。事務所は、鉱山内にあり、胡麻目坑入口から200mほど、15分ぐらいかけて歩いて行った記憶があります。坑内は、広さ300坪ほどで、4階建ビルが建つほどの場所がありました。

インタビュー

かつて、多くの坑夫を賑わしていた永野金山集落。永野上、永野下集落では、料亭や呉服店、パチンコ店などが立ち並んでいました。なかでも、時代劇などの映画が楽しめる集会場『金山倶楽部』は、産金にあたった坑夫たちの憩いの場となっていました。そんな、金山集落の当時の様子を知り、坑夫として金の採掘にあたった金山集落の3人の方に話を聞きました。

集落では、金山の歴史をひも解き
新たな取り組みが始まっています

案内

永野金山ものがたり-03
地域遺産で
まちづくり